

令和4年度第1回保呂羽山少年自然の家協働会議 会議録【要旨】

1 日時・場所

令和4年4月27日（水） 午後2時30分から
保呂羽山少年自然の家 1階 ジュピター（視聴覚室兼研修室）

2 出席者

(1) 委員 6名

高橋副会長、藤原委員、加藤委員、渡部委員、武市委員、佐藤委員

(2) 秋田県教育庁生涯学習課 2名

中田課長、加藤社会教育主事

(3) 保呂羽山少年自然の家 8名

畑所長、佐々木副主幹（兼）班長、北畠主任社会教育主事（兼）班長、
小松田社会教育主事、渡辺社会教育主事、中嶋主事、佐藤技能主任、柴田研修員

3 次第

(1) 所長あいさつ

(2) 委員及び職員紹介

(3) 会長及び副会長選出

(4) 会長あいさつ【高橋副会長】

(5) 議事

(6) 生涯学習課長あいさつ

4 発言要旨

- ・秋田県が少子高齢化が進んでいるなか、利用する子どもたちを増やすには、県外にも目を向ける必要があるのではないか。
- ・横手市の三平の里では県外利用が多く、大改修を数年かけて行う計画があるようなので、競争とまではいかなくとも、保呂羽でも何か動いていく必要があるのではないか。
- ・自然の中での体験学習というのは、「モノがない」「不便」だからこそ、自分で課題を見つける主体性を学べる場、協力して解決することで人同士のつながり、思いやりを学べる場として意味があるのだと思う。利用者の利便性への要望があるのは当然だが、「裕福」「便利」にしすぎても自然の家の意味としてはあまりいいことではないのかもしれない。
- ・新主催事業「ファミリーデイキャンプ」について、現在はコロナ禍も相まってアウトドア系への関心はかなり広がっているところであり、親がキャンプを学べる機会としていい試みだと思う。
- ・天文台について、建物や通路の破損、クマの影響があって近年使用できていないので、今後のあり方についても検討する必要があると思う。
- ・食事について、弁当に替わったことにより、食堂のころよりアンケートで「満足」の割合が下がったことは仕方の無いことではある。子どもによって食べられる量が大きく異なるので、食品ロスを抑えるために何かできることはないものか。